

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(1/10)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
みえライフイノベーション総合特区 (三重県)	4.3	4.9 進捗度 ・統合型医療情報データベースの活用 100% ・ヘルスケア分野の製品・サービスの増加 108% ・ヘルスケア産業の振興 138% ・ヘルスケア分野企業(第2創業含む)及び研究機関の立地件数(累計) 126%	3.9 規制の特例等 ・健康増進に資する機能性食品の効能効果の表示・広告の実施 財政支援等 ・総合特区支援利子補給金 等 地域独自の取組 ・医療情報利活用推進事業費補助金 ・みえ経営向上支援資金 等	4.2	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大のなかにあっても、統合型医療情報データベースの活用促進やMieLIPによる研究開発支援活動の活性化の目標をともに達成したことが評価できる。</p> <p>・「医薬品の範囲に関する基準」に規定する「医薬品的な形状の解釈」の緩和への貢献を評価したい。</p> <p>・統合型医療情報データベースが地域の企業によって活用される事例により、MieLIPとデータベースの事業連携が深まるとよりよいと思われる。</p> <p>・データベースが開発され今後製薬企業等との共同研究計画により実績をあげることが期待される。認知症ケアなどのための福祉機器の開発の具体化を期待したい。</p> <p>・達成された数値目標における事業の持続可能性および発展性について、何らかの形でフィードバックされることを期待する。</p> <p>・令和2年度のみならず、事業開始時から高い目標達成度を維持しており、取組の成果がうかがえる。その一方で当初の目標設定の妥当性、および、事業途中における目標値上方修正などについては、再考の余地が残される。</p>